



福岡市城南区梅林 2-11-9
陶芸工房フラクタル
TEL&FAX: 092-577-5769
http://www.yurasan.com

フラクタル流



陶芸工房フラクタル

福岡の2月が寒いのは分かっています。朝夕の冷え込みはたまりませぬ。
工場の作業で一番厳しいのは、バケツに入れてるそれぞれの釉薬を素手でかき混ぜる時です。
釉薬はスグに沈殿するので、施釉する時は混ぜ続ける必要があるのですが、バケツの中はたぶん0度近くになっています。
指がちぎれそうになるという表現が当たってるかも知れませぬ。
この時期面白いのは、生徒さんの誰かが、ある釉薬をがまんして混ぜると、施釉の予定のある人が皆「私も、その釉薬にしよつ」と、あっさり自分の作品の上薬を決めてしまうことです。(笑)
陶器のいいところは、均一さを重んじる磁器とは異なり、各人が作った器の厚みや形状によって、同じ釉薬でも微妙な違いが「味」となって焼きあがるところです。

「わが町・梅林」

行ってきました大宰府へ
お参りにではありません、わが町「梅林」はその名の割には町内に「梅」がないね～、という声があり、ぼくらの生きているうちにこの町をその名のとおり梅の林にしようという計画がもちあがりました。



で、この日は梅の下見としゃれこみましたが・・・なんと梅はあまり咲いていませんでした。
(> <)



自然の中のフラクタル

これはなんの葉っぱか不明ですが、伊都菜々の花屋で見つけました。
あつ！ここにもフラクタルが・・・と思わずシャッターをきりました。ひとつの葉の中にいるんな相似形(フラクタル)が出来ています。葉っぱそのものと、こげ茶色の縁取り、内部の紫の部分の形がまったく同じです。
自然は実に神秘に満ちている。

生徒さんの作品紹介



養父さん作 お雛様(立ち姿)

タニシのテレポーション

<連載その8> 由良作
ある時、ゴンタが自分の夢の話
をゾン爺に話すと、ゾン爺の目の色が変わった。

そしてこう言った「ゴンタよ、ワシの知っている全てをお前に伝授しよう。数千年前のワシらの種族の祖先は、3次元空間を自由に行き来していたんじゃ。いつの間にかその能力も失われていったが、一部の者だけにその能力を発揮するDNAが残された。その能力をテレポーションという。お前は、確実にDNAの中にその能力を引き継いでいると見た。そのDNAにスイッチを入れることが出来さえすれば、おまえもワシ同様に、どんな所へもひとつ飛びで行けるようになるはずだ。」

ただし・・・、この能力を身に着けるには命の危険をとまなう。お前にその覚悟ができるかな? <続く>



バック No が気になる方は
www.yurasan.com



陶芸の話

小堀遠州の借景

3大茶人のひとりといわれる遠州は、従来の「わび・さび」の茶の世界に「綺麗さび」という考え方を取り入れました。
派手を良しとしないわび・さびの中にあつて、ほんのりあでやささが・・・従来のクローズ感覚の茶室もオープンなものにし、広く開かれた襖の枠で切り取った庭の景色を、借景として楽しみました。お茶の香りと同時に季節のうつろいを感じれるのがいいですね

うさぎの「よん太」くん



最近このウサギ、住環境に慣れたのか、ケージからはみ出してどこでも寝ます。この写真まで枠からはみ出しました(笑)